

まほら

2022 5 No.2

朝読書がスタートします

皆さん朝読書の本は準備できていますか？強化週間の火曜日と金曜日の朝8：00～8：10の間に各クラスで図書委員が本の貸し出しをします。本を忘れた人は、貸し出しをしている時間に借りてください。貸し出しをしている時間以外で本の貸し出しはできません。

クラスで本を借りる場合

クラスの図書委員のところに行く



借りる本を決める



選んだ本と同じバーコードを図書委員が持っている紙の中から探し、その上に出席番号と名前を書く



借りた本は責任を持って返しましょう

本を返す場所

- まほら館
- 各学年の靴箱近くの返却ボックス
- まほら館前の返却ボックス
- 生徒棟 2 階の校庭側の返却ボックス

皆さん、1 か月程前に本屋大賞が発表されましたが読みましたか？



『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬（著）

舞台は第二次世界大戦中のソ連。母を撃ったドイツ人狙撃手と、母の遺体を焼き払ったイリーナに復讐するために狙撃兵の道を選んだ少女。おびただししい死の果てに、彼女が目にした“真の敵”とは？



『赤と青とエスキース』青山美智子（著）

メルボルンの若手画家が描いた 1 枚の「絵画（エスキース）」。日本へ渡って 30 数年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく。2 度読み必至！ 仕掛けに満ちた傑作連作短篇。

まほら館にはこれらの本屋大賞を受賞した本だけでなく、様々なジャンルの本があります。自分の目で読む本を選んでみてはどうですか。

📖2022 年本屋大賞関連本の紹介📖貸出中の本は予約できます。



『硝子の塔の殺人』 / 知念 実希人 (実業之日本社)

雪深き森で、燦然と輝く硝子の塔。ミステリを愛する大富豪の呼びかけで、一癖も二癖もあるゲストたちが招かれた。この館で次々と惨劇が起こる。謎を追うのは名探偵と医師…。



『星を掬う』 / 町田 その子 (中央公論新社)

千鶴が夫から逃げるために向かった「さざめきハイツ」には自分を捨てた母・聖子がいた。他の同居人は、娘に捨てられた彩子、聖子を「母」と呼び慕う恵真。4人の共同生活は、思わぬ気づきと変化を迎え…



『スモールワールドズ』 / 一穂 ミチ (講談社)

様々な家族を通して、誰かの悲しみに寄り添いながら、愛おしい喜怒哀楽を描く連作集。



『六人の嘘つきな大学生』 / 浅倉 秋成 (KADOKAWA)

成長著しいIT企業の最終選考。最後に残った6人に出された課題は「1人の内定者を6人で決めること」。そんな中、6人それぞれの「罪」が告発された6通の封筒が発見される…。



『夜が明ける』 / 西 加奈子 (新潮社)

どれだけ傷ついても、夜が深くても、必ず明日はやってくる。思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡を描く。再生と救済の物語。



『残月記』 / 小田 雅久仁 (双葉社)

近未来の日本、人々を震撼させている感染症「月昂」に冒された若者。カリスマ暴君の歪んだ願望に運命を翻弄されながら、愛する人のために抗い続け…。